広報誌

JAきたそらち

2022 10月号 No.259

～農業振興を通じて地域社会へ貢献～

今年も収穫の秋を迎え、9月2日、音江地区を皮切りに当JA管内各地で稲刈り作業がスタートしました！

➡記事の詳細は3ページ

JAきたそらちでは、ホームページ/Facebook/Instagram/YouTubeで、魅力満載の情報を発信中です！ぜひ、ご覧ください！

ホームページ

YouTube

Facebook

Instagram

JA_KITASORACHI

目　次

■令和4年産米　各地区で初出荷！！・・・・・・・・・・ 2

■元気村・夢の農村塾20周年記念式典
～「響き合う未来へ」～・・・ 4

■一已中学校　枝豆の収穫体験 ・・・・・・・・・・・・ 5

■イペ・トイ・レシカ
～収穫体験・キャンプ編～・・・ 9

JAきたそらち

令和4年産米
各地区で初出荷

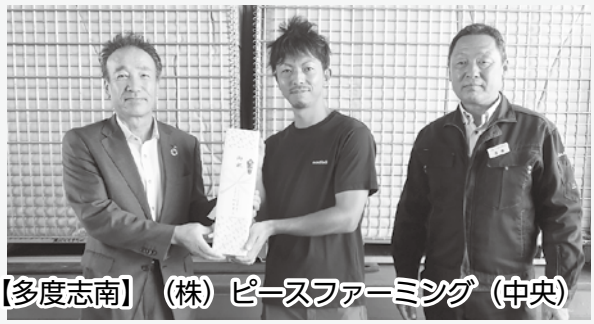
深川支所（音江地区）　9月5日

【内園】　加賀美　匠さん（中央）

深川支所（納内地区）　9月6日

【納内】　山田　憲明さん（右から2人目）

深川支所（多度志地区）　9月7日



【多度志南】（株）ピースファーミング（中央）

深川支所（メム地区）9月8日

【北菊水】（株）きはらふぁーむ（右から2人目）

深川支所（一已地区）　9月8日

【一已第6】　小林　松二さん（右から2人目）

北竜支所　9月13日

【西川】藤井　啓二さん（左から2人目）
【古作】古作ライスセンター（右から2人目）
※【西川】（株）藤井ファーム、【和】川瀬　崇さんも初出荷

幌加内支所　9月15日

（もち米）
【幌里】古林　茂さん（左から3人目）
【幌里】南谷　秀明さん（右から2人目）

雨竜支所　9月16日

【北友】藤田　涼太郎さん（左から2人目）
【本牧】長谷部　朋（右から2人目）

幌加内支所　9月21日

（うるち米）
【幌里】古林　一文さん（中央）

令和４年産米の収穫作業管内各地区でスタート

９月２日から、深川支所音江地区を皮切りに、JA管内各地で令和４年産米の収穫作業が始まった。音江地区の加賀美匠さん（表紙写真）が管内のトップを切って作業を始め、初日は「ゆめぴりか」を50aほど刈り取った。加賀美さんは、「ななつぼし」「ゆめぴりか」「ふっくりんこ」を合わせて約17haに作付けしている。５日には刈り取った「ゆめぴりか」13トンをJA納内検査場へ持ち込んだ。

加賀美さんは「風の強い日が多く、代かき後のゴミあげや、水管理には苦労したが、春先の天候にも恵まれ、今年も例年通り作業が進んでいる。肥料が高騰し経費が掛かる中でも、美味しいお米を作るよう努力をしている。子どもからお年寄りまで幅広く多くの方に食べていただければ」と笑顔で話す。

今年のJA管内の水稲作付面積は9,400haとなっている。米穀課職員は今年の生育について、「茎数は若干少ないが、出穂揃いも良く、黄金色の稲穂が眩しく豊穣の秋を予感させてくれている。生産者が１年間愛情を込めて作ったお米の収穫。そのお米をＪＡでしっかりと施設調製し、お客様へお届けしたい」と話す。各地区では９月15日頃から稲刈り作業が本格的に始まり、10月中旬まで続く予定。

【雨竜地区】左のコンバインから
岩田祥也さん、田岡隼人さん、吉本昌史さん

【北竜地区】岩倉祥隆さんの長男、岩倉竜矢さん

3年ぶりの開催！ 幌加内町新そば祭り

9月3日と9月4日の2日間、そばの作付面積日本一を誇る幌加内町で、「第27回 幌加内町新そば祭り」が開催された。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年以来開催されていなかった同祭が3年ぶりに開催された。当日は道内外のそば店8店舗が出店し、収穫したばかりの幌加内町産「ほろみのり」をそば打ち愛好家団体などが手打ちそばで振舞った。両日とも大勢の来場者が訪れ、獲れたて打ちたての新そばを食べ比べながら楽しんだ。来場した女性は「とにかくすごい行列で驚いた。どこもとても美味しそうなので、どこに並ぶか悩んでしまいます」と笑顔で話す。

屋外ステージでは、スコップ三味線のステージや元ちとせさんと小沢仁志さんのトークステージなどが行われ会場を盛り上げた。

同祭を共催する当JAでは、販売部が消費拡大を目的として、砂糖・牛乳の無料配布を行い、青果部ではメロンやゆり根などの販売を行った。

２日間のあいだ、お土産広場やキッチンカーなど合わせて60店舗出店されており、来場客は久しぶりのお祭りを楽しんだ。

元気村・夢の農村塾20周年記念式典
～「響きあう未来へ」～

都市部の中・高校生を対象に農業体験型の修学旅行の受け入れを行う「元気村・夢の農村塾」（村上はるみ塾長）が平成14年3月に設立され、今年で20周年を迎えた。

20周年を祝して8月30日、音江町のアグリ工房まあぶで20周年記念式典とワークショップが行われ、同塾の会員や自治体・JA職員など約40名が参加した。

開催にあたり村上塾長は「沢山の方に支えられ、元気村・夢の農村塾は20周年を迎えることができた。20周年のスローガンは『響きあう未来へ』。今後の農業と農村塾が末永く続くように願っている。」と挨拶した。また、当JAの岩田清正専務も同式典に出席し、「当JAでも地域の方に地域農業を知ってもらう活動をしている。農業を一から理解してもらうのは大変だが、子どもたちに農業を広めることは大切な事。今後も活動を続けていただきたい」と挨拶した。

続いて、「農村塾の未来を考える」をテーマに、参加者が5班に分かれ、今後の農村塾の活動を継続・発展させるための意見交換をした。「いま以上にJAや市役所などの関係機関に協力を求めては」「農業体験を農家が受け入れるメリットを明確に示すことが必要」「SNSやパンフレット、関係機関の広報誌などで積極的にPRを行うべき」など様々な視点から意見が出された。

その後、各班で出された意見が発表され、農村塾の継続・発展について出来る事を共有した。

「深川一巳バトルス」全国優勝を祝して
「ふっくりんこ」を贈呈！

販売部

7月29日から8月1日にかけて徳島県で開催された、「第10回記念野球のまち阿南少年野球全国大会」に出場した、深川市の少年野球チーム「深川一巳バトルス」の全国優勝を祝して9月2日、ふかがわ米生産組合（伊藤裕美組合長、382戸）が「ふっくりんこ」5kgを20袋贈呈した。

伊藤組合長は「全国優勝おめでとう。自分と仲間を信じて頑張った結果だと思う。深川の米を沢山食べてこれからも将来に向けて頑張ってほしい」と激励の言葉を贈り、主将の松井啓輔さんは「深川のお米をいっぱい食べて、大きくなってこれからも頑張ります」とお礼を述べた。

一已中学校 枝豆収穫体験

農業振興部

8月26日、深川市立一已中学校2年生の総合的な学習の時間として枝豆の収穫体験が行われ、生徒54名が参加した。

この日は、鎌を使って大きく育った株を手作業で刈り取り、枝から莢（さや）を収穫した。

今年6月に同校の生徒が約200㎡の畑に播種したユキホマレは一人当たりおよそ20株あり、播種後は生徒及び当JA職員が除草作業等を行い育てた。

参加した生徒たちは一心不乱に収穫し、中には時間内に収穫が終わらない生徒も見られたが、クラスメイトや職員の手伝いにより作業を無事に終わらせた。作業中の生徒からは「枝からもぎとる作業は腰が痛くなって大変だった」「おばあちゃんがいつも莢の状態の枝豆をくれるが、こんなに大変な作業だとは思わなかった」など声が聞こえた。作業終了後には、ビニール袋いっぱいに収穫した枝豆を各自持ち帰った。

組合員・JA役職員向け　インボイス制度説明会開催

9月6日、組合員・JA役職員向けの「インボイス制度説明会」がJA本所（本会場）および各基幹支所（リモート会場）で開催された。

同説明会は、インボイス（適格請求書）を用いて仕入税額控除を受けるための「インボイス制度」が令和5年10月から導入されることを受け、インボイスの発行事業者（適格請求書発行事業者）となり得る可能性のある組合員や、同事業者となるJAの役職員に同制度の仕組みや農業との関わり、また今後の対応についての理解を深めてもらうことを目的として開催し、組合員およびJA役職員を合わせて約60名が参加した。

講師には、当JAと顧問契約を締結し、毎月1回の組合員向けの無料経営相談会やJA広報誌において情報を提供頂いている、旭川市の「税理士法人 中央総合会計（井内敏樹代表）」の村上克博マネージャーを招き、「消費税インボイス制度と農業への影響」と題して説明を頂いた。

村上マネージャーは、消費税の基本から同制度の概要、農業との関わり、経過措置について、フローチャートや表、計算例などを用いて、わかりやすく説明し、また今後の対応については、「同制度は翌年3月末までに登録が必要だが、確定申告時期に手続きが集中すると、開始時期までに登録が間に合わない可能性がある。また登録番号をインボイスに記載する準備等も必要になるため、該当する方は早めの対応を」と注意喚起した。

説明の後に行われた質疑応答では、同制度における手続きの方法や共同計算における農協特例のあり方などについて、参加した組合員から多くの質問が寄せられた。

なお、今回の「インボイス制度説明会」については、多くの反響を頂いたため、今後、当JAのYouTubeチャンネル「きたそらちゃんねる」において、説明会の（質疑応答を除く）様子を動画で公開する予定です。公開する際に、改めて本誌でお知らせいたします。

青年部だより

JA YOUTH

JAきたそらち青年部

白米促進事業を実施

JAきたそらち青年部（村上勝彦部長）では、毎年実施している白米販売促進事業の一環として、本年はJA管内の道の駅における米の無料配布および幌加内町新そば祭りにおいて米のすくい取りを出店した。

8月27日より配布を開始したJA管内道の駅における米の無料配布は、昨年も実施しており、本年においてもJA管内の道の駅4か所で実施した。ふかがわまい、うりゅう米、北竜ひまわりライスの「ななつぼし 1袋300g」を計2,500袋用意し、同部の活動の一環として作成したファームレターを貼り付け各道の駅で無料配布した。コロナ禍を考慮し、対面での配布は昨年同様実施しなかったが、配布開始日に配布数量に達し、終了となる場所もあるなど大変好評だった。

9月3日に実施した幌加内町新そば祭りでの米のすくい取り出店は、事前に用意したふかがわまい「ふっくりんこ玄米120㎏」を当日会場で精米し、5号枡を使ったすくい取りで来場客に販売した。当日は開場前から来場客が列を作り、一時は精米が追い付かなくなるほどの盛況ぶりで、予定していた時間よりも早く、午前中で完売となった。すくい取りの出店による売上金額は、NPO法人へ全額寄付する予定となっている。

本年の白米販売促進事業を通し、村上部長は、「“きたそらちの米”の販売促進につなげるため、青年部としても道の駅での無料配布や精米したての新鮮なお米のすくい取りを行い、消費者にお届けすることができた。今後の青年部活動でも継続して“きたそらちの農畜産物”をPRしたい」と話す。

女性部だより

JAきたそらち女性部

合同日帰り研修で果物狩り♪

8月22日、余市町にて、第17回JAきたそらち女性部合同日帰り研修が開催され、女性部員18名が参加した。

今回は、新型コロナウイルスの感染対策をしっかりと行い余市町ニトリ観光果樹園にて、野外での果物狩り体験を行った。

当日は青天に恵まれ、広大な果樹園には、さくらんぼや梨など様々な果樹があり、今回は8月が旬の果物「桃・プラム・プルーン・りんご」の収穫体験を行った。

桃の収穫は部員の大半が初めての体験で、厳しい残暑と闘いながら、園内の木々をかきわけ食べ頃の果実を探すのに苦労していたが、その場で皮をむいて食べた甘酸っぱい桃やプラムは「一段と美味しく、面白い」と参加者は夢中でもぎ取っていた。

また、食べずに刈り取った果物は家族へのお土産として持ち帰っていた。

昼食時には、園内にてジンギスカン鍋を囲みながらお互いの農作業の近況を語り合った。

その後、小樽市の南樽市場でそれぞれ当日の夕食などを買い物して帰路についた。

ＪＡきたそらち女性部　支部長研修

ＪＡきたそらち女性部　部長　岡田　裕子

9月5日・6日に1泊2日でＪＡきたそらち女性部支部長研修を行いました。

1日目は、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部震災の被災地、厚真町を訪れ、厚真町観光協会が行っている「避難所疑似運営」を体験してきました。避難所で起こり得る出来事を疑似体験し、将来の災害に生かす為にグループで協力し避難所で生活する一人ひとりに寄り添った解決方法を導き出すボードゲーム感覚で学習するプログラムです。実際に現場で起きた出来事をベースにし、避難者の年齢・性別・国籍・それぞれが抱えている事情が書かれた家族カードを避難所平面図にどれだけ適切に配置出来るか、また避難所で起こる出来事にどの様に対応していくかをグループで真剣に話し合いました。カードには、風邪を引いて熱がある人、透析（とうせき）を受けている人など様々な事情が記載していました。私達は疑似体験でしたが、この様な事が実際起きた時の災害の備え、思いやり、絆の大切さを学ぶ事が出来ました。

次に訪れたのは、(株)Ｊファーム苫小牧工場です。こちらでは、トマトやベビーリーフが栽培されており、スマートアグリシステムを採用した太陽型植物工場です。スマートアグリシステムとは、天然ガス・バイオマス・温泉熱など多様なエネルギーを利用し、ハウス内の温度、湿度、日射量、肥料などＩＴ技術で管理・維持する栽培方法です。特にトマトに至っては、生育状況に合わせた最適な養液を配合しながら糖度10以上のトマトが約10ヶ月供給可能となります。私も直売所でトマトを購入させていただきましたが、皮がしっかりして甘みがギュッと詰まった美味しいトマトでした。

その後、宿泊先のホテルに移動し、第3回支部長会議を開催し今後の行事予定について話し合いました。実はこの日、厚真町観光協会で行った避難所運営体験の際には胆振東部地震から丸4年経ったと言う事もあり、ＮＨＫからテレビ放送の取材・インタビューを受けており、その時の様子を皆で見る事が出来ました。疑似体験を真剣に取り組んでいる自分達の姿がテレビに映っており、これもまた心に残る体験が出来たと思います。

2日目は、恵庭市にあるフラワースタジオリビングカラーズでプリザーブドフラワーを使用した「リース作り」を行いました。とても優しい講師の方にアドバイスを受けながら、ピンク系・オレンジ系に分かれて同じ材料でスタートしましたが、それぞれの個性が出て皆違う仕上がりになっていてとても楽しかったです。その後、道の駅花ロードえにわ・マオイの丘に行き地元野菜等を手に取りながら最後の研修を楽しみました。

今回の支部長研修では、時に笑い、時に真面目に話し合い本当に色々な事を体験が出来ました。

今回の研修で支部長間の親睦も深まり、これからの活動の励みになります。

大変有意義で楽しい時間を共有させて頂いた事に感謝致します。

JAきたそらち女性部

福祉施設へタオルを贈呈

JAきたそらち女性部は、地域貢献の一環として平成16年から実施している「部員タオル1本運動」を行った。

部員がタオルを1人一本持ち寄り各地域の福祉施設へ贈るこの運動は、年々女性部員は減少しているものの今年度は部員数383名のところ795本ものタオルが集まった。

集められたタオルは、利用者の入浴時などにも使用しているが、新型コロナウィルス感染症予防対策によって行う施設清掃にも活用されている。

各施設からは、「毎年沢山のタオルをありがとうございます。有効に使わせていただきます。」と大変喜ばれている。

贈呈施設 介護老人保健施設 エーデルワイス

贈呈施設 永福園 デイサービスセンター

贈呈施設 深川特別養護老人ホーム 清祥園

贈呈施設 老人ホーム こんにちわ　金さん銀さん

贈呈施設 多度志生活支援ハウス しらゆりの里

贈呈施設 特別養護老人ホーム 雨竜寿園

贈呈施設 社会福祉法人 北竜町社会福祉協議会

贈呈施設 特別養護老人ホーム 北竜町永楽園

贈呈施設 幌加内町立幌加内診療所

総務部

JAきたそらち子ども向け食農教育事業 イペ・トイ・レシカ

～収穫体験・キャンプ編～

8月3日、今年度4回目となる当JAの食農教育事業イペ・トイ・レシカが行われ、子ども8名、塾生7名が参加した。

今回は、収穫体験とキャンプを目的とし、深川市音江地区にある「まあぶオートキャンプ場」にて実施。子どもたちが夏休み期間中であるため、当初はコテージに宿泊するキャンプを予定していたが、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、急きょ宿泊を伴わないデイ・キャンプ変更して実施した。

当日は、キャンプの前段として、同事業において塾生が栽培・管理を行っている圃場にて野菜の収穫体験を行った。子ども達は塾生による指導のもと、見事に生長したミニトマトやナス、レタス、ジャガイモを次々と収穫し、互いの収穫量を競い合いながら、収穫を楽しんでいた。

キャンプ場に到着してすぐ、塾生と子どもたちで協力して、テントとタープの設営や夕食の準備を行い、その後は当日収穫した野菜と地元の農畜産物をふんだんに使ったキャンプカレーやバーベキューなどを堪能した。

夕食後は、子どもたちからのリクエストによる鬼ごっこや花火を行い、塾生と子どもたちは汗を流しながらも一緒に楽しんでいる様子だった。

今回参加した子どもたちは、「野菜は嫌いだけど、自分で収穫したものだけは少しだけ美味しく食べられた」「キャンプでお泊まりはできなかったのは残念だったけど、美味しいものを食べられたり遊んだりできて楽しかった」など笑顔で感想を話す。

直売所eciRからのお知らせ

青果部

10月より営業時間が下記の通り変更となります。
※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、営業時間を変更する場合がございます。

10月の営業時間　9：00 ～ 18：00

JAきたそらち太陽光発電所　発電実績

○令和４年８月実績

発電電力 **52,011kWh**

計画対比	＋	5,041kWh
前年対比	△	9,578kWh

○累計（R3.12～R4.8）

発電電力 **374,920kWh**

計画対比	＋	92,815kWh
前年対比	△	650kWh

酪農学園大学が当JAでインターンシップ！

９月５日から８日、江別市の酪農学園大学　４年生１名、３年生３名が当JAでインターンシップを実施した。

JAの概要説明、選果場や深川マイナリーなど農業施設の見学のほか、農作業体験と新規就農について学ぶため㈱深川未来ファームに協力をいただき、きゅうり収穫や出荷作業の補助、鎌を使った稲刈り作業など様々な農作業を体験した。また、農産物直売所ｅｃｉＲでは商品の袋詰めや陳列作業などを行い、収穫から販売までの流れを体験した。

今回は、酪農学園大学OB・OGとの対話を設け、同大学卒業生を代表して金融共済部渉外課　玉置将督職員、販売部畜産課　山崎栞職員が参加し、「なぜJAきたそらちへ入組したのか」「仕事のやりがいは」などについて話した。インターンシップ最後のまとめとして同大学卒業生でもある農業振興部　佐藤一久部長よりJAきたそらちが取り組む農業振興や地域貢献のことなどについて講義を行った。

参加した学生からは「収穫や販売を体験することで農業の流れが理解できた」「JAきたそらちが、自分の想像より遥かに多種多様な業務内容を行っているということに驚いた」など感想を聞かせてくれた。

【人事課　墓田】

JAきたそらち野球部 第60回全道JA野球大会へ出場

６月下旬に栗山町と長沼町で行われた第63回空知管内JA野球大会で２大会連続、３度目の優勝を果たした当JA野球部は、９月１日、２日に江別市で行われた第60回全道JA野球大会に出場した。同大会は全14チームによるトーナメント戦で行われ、１回戦で強豪のJAあさひかわと対戦。

佐藤（雨竜支所営農課）の力投で５回まで試合は拮抗していたものの、６回表に相手打線の猛攻を受けて４点を失い、６回裏に千石（金融共済部渉外課）、７回裏に佐藤が安打により出塁したが、打線がつながらず0-4で惜しくも初戦での敗退となった。今年度の優勝はJA道央、準優勝はJAあさひかわとなった。

役職員をはじめ応援して頂いた皆様、熱いご声援ありがとうございました。

JA全中からのお知らせ

林修先生と学ぶ みんなの食料安全保障

世界情勢の激変で、日本の「食」のリスクが拡大しています。

日本の「食」は多くのリスクを抱えています。その代表的なリスクが「食料自給率」の低迷です。日本の食料自給率は、わずか38%*。食料の約6割を、輸入に頼っているのです。
そして今、日本の「食」は、ウクライナ情勢という新たなリスクに直面しました。世界の食料価格の高騰に、さらに拍車がかかったのです。「食料は、安く、いくらでも輸入できる」。そんな時代は、もう過去のものになったと言っても、過言ではないでしょう。
*2021年・カロリーベース

日本の「食」と「農」を支え、未来につなぐ「国消国産」。

では、いざという時に食料が不足しないためにはどうすればよいのでしょうか。その答えを、JAグループは「国消国産」として提唱しています。
「国消国産」とは、「国」民が必要として「消」費する食料は、できるだけ、その「国」で生「産」する、ということです。

生産資材の高騰が続き、日本の農業は苦境に立たされています。

世界情勢の変化は今、農業の現場に、大きな問題をもたらしています。肥料、家畜の餌、燃料など農業生産に欠かせない資材価格の高騰が、経営を直撃しているのです。このままでは農業を続けることが難しいという、生産者の皆さんの深刻な声も聞こえてきます。

適正な価格で「国消国産」を進める。それが「みんなの食料安全保障」。

このままでは、農業の経営は立ち行かなくなり、日本の「食」の未来は見えてきません。生産者を支え、日本の「食」を未来につなぐために、農畜産物の適切な価格形成に向けた環境づくり、ルールづくりを模索すると共に、私たちもまた、日本の「食」と「農」を支えるために、意識を変えていくことが求められる時代になったのではないでしょうか。できるだけ国産のものを手に取り、食べることが、私たちにできる「国消国産」の実践であり、日本の生産者を応援することにつながります。それが私たち「みんなにできる食料安全保障」と言えるでしょう。

さあ「国産」を、食べて応援！
「JAタウン」で旬の農畜産物を、
今だけ送料無料で。
https://www.ja-town.com/shop/e/ekokusho/
期間 2022年10月13日から11月末日まで
※既定数に達した場合、早く終了することがあります。
詳しくは▼
おいしい日本と暮らす。
JAタウン

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ

石田邦雄の 農業紡ぎ愛 第23回

「3つの言わない」を合い言葉に

去る8月末、JRと関係自治体との間で、明年3月末まで（深川ー石狩沼田間は3年間継続）ということでJR留萌線の廃止が決まったとのこと。深川市を初め北空知全体の地域衰退等も考えられ、何かと頭の痛い問題の一つとして浮上してきた感があります。かつてJRの前身である日本国有鉄道（略称国鉄・現JR）に20年以上も勤務した私としては、日に日にこうして公共交通としての色合いが薄くなる動きに一抹の寂しさを覚える昨今です。今回はそれに関連した話を。あれはもう30年以上も前、国鉄が分割民営化され間もなくの出来事です。その頃私は、中小企業診断士として看板を掲げたばかりで、暗中模索の毎日が続く中で頂いた貴重な仕事がありました。収穫した農産物を輸送するという、皆さんとも関連が深い日本貨物鉄道㈱北海道支社からお声がかかったのです。「あなたは長年、国鉄に籍を置き、この度、経営コンサルタントとして独立をした。ならば鉄道事業の現場も知っているので、わが社の体系だった社員研修をお願い出来ませんか？」と。開業したばかりで、海のものとも山のものともわからず手探り状態である私にとってはこんなに有り難い話はありません。身のほど知らずに二つ返事でOKし無知の仕事に手を染めることになりました。上は駅長職から末端の一般社員まで、月に1度くらいの割合で札幌の白石にある研修所に向かいました。その内の一つ、あれは営業関連の社員研修で、受講者の多くは30歳半ばの方達だったように記憶をしています。まだ民営化になって日も浅く、現場でどのような問題があり、どう解決に向けていけばよいかを検討する内容で講義を行った時でした。そうすると「これでもか、これでもか」と言わんばかりに問題が出るは出るは。併せて解決策も考えてもらうとその大半は「あっちが悪い、こっちが悪い」の大合唱ともいえるもので、聞く私も辟易するほどでした。その発表を聞きながら、一方で私に浮かんだ別の顔の人達がおりました。実は北海道では民営化にあたり、国鉄職員からJR社員として採用になった人は2人に1人。採用された彼らの裏側で、残ることが出来ずに泣く泣く国鉄清算事業団に配属になった人達がいたのです。その研修所にも出講をし、彼らの怒りにも似た悲痛な胸の内を聞いている私です。そこでまとめとして言ったのがこの「3つの言わない」でした。その一つ目、「過去のことは言わないこと」です。「皆さんは旧国鉄から新生なったJRに採用されたのですよね。もし『国鉄の方が良かった』と言い、過去に戻れるならドンドンと大きな声で言って下さい。でも残念ながら人は過去に戻ることは出来ません。残れなかったかつての同僚の思いも背負いながら、新会社に採用になった者として、この先をがむしゃらにでも作っていく…その気迫くらいを持たれるのが筋と思いますが」と。二つ目は「他人のせいにして言わないこと」です。「あなた達が問題としてあげているのはどこかで自分と関係があるからですよね。その原因は会社や上司など、皆、周りで、あなたは関係がないのですか？この構図ですと『不満が不満を生む』という心の悪循環構造に陥ってしまい、益々、あなたを追い詰めていくでしょうね。現状がそうであったにしても『その中で自分に何が出来るか？』…それを考えられるあなた達だからこそ新会社に採用されたと私は思いたいのですが」。もう一つは「出来ないとは言わないこと」で、これを強調したのには大きな理由があります。その時の受講者の多くは旧国鉄時代に機関士業務に携わってきた人達でした。彼ら曰く。「自分は事務作業などが嫌だから機関士になったんだ。それなのに何を今さら、この年齢になり面倒な書類書き等をしなければならないのだ」と言うではありませんか。そこで私は言いました。「『出来ない、出来ない』と言える内はいいですよね。でもこのままのスタイルを貫くなら、いくら背中の看板をJRに変えたとしても所詮、先がしれていると思いますが」と。

以上が「3つの言わない」です。いかがですか？私は今後、農業を取り巻く環境はより厳しいものになろうかと思います。ただ、どんなに「厳しい」といっても環境は変わりません。これはJA職員も同様です。そこで問われるのが各人の主体性です。こうした時代だからこそ「3つの言わない」を互いの合い言葉にするのも意味があると思うのですが。

それではまた12月号でお会いしましょう。

【著者】石田邦雄（いしだくにお）氏

1946年北海道新得町生まれ。（有）石田コンサルタントオフィス代表取締役、めでる研究室主宰。
国鉄、会計事務所を経て中小企業診断士として独立開業。
現在は社会保険労務士、キャリアコンサルタントとして、組織改革や人材育成に携わる。人と企業のマッチングを目指し、中小企業大学校を初めJAカレッジなど、多くの団体、企業と携わる。「教えるよりも考える」、「学ぶより気づく」を柱に、体験学習を交えたわかり易い研修が特徴。著書に「産業カウンセリング」や「縁を紡ぎ、人を育む」など多数。

北海道立農業大学校からのお知らせ

「若手農業者の農業経営力向上」を目指した研修会です！

令和4年度 北海道農業経営塾 農業経営実践コース

●開催日程と会場

1期（農業大学校）
令和4年 11月21日（月）～22日（火）

2期（札幌市内）
令和4年 12月19日（月）～20日（火）

3期（札幌市内）
令和5年　1月26日（木）～27日（金）

●受講料：無料
※農大開催の場合は、別途、食費、施設利用料等を徴収します

●研修内容
1期：国の農業施策と支援制度、有機栽培、先進農家の取組事例、資金計画、収入保険等
2期：法人化、労務管理（労働保険、社会保険）等
3期：スマート農業技術、GAP・HACCP制度、農業の人材確保・マネージメント、農産品の輸出支援取組、経営承継と税務関係、経営相談会等

●北海道立農業大学校　教務部（研究・研修）
電話：0156-24-2700　FAX：0156－24－2421
E-mail:infokenshu@f1.octv.ne.jp

研修HP

－ 連載 －

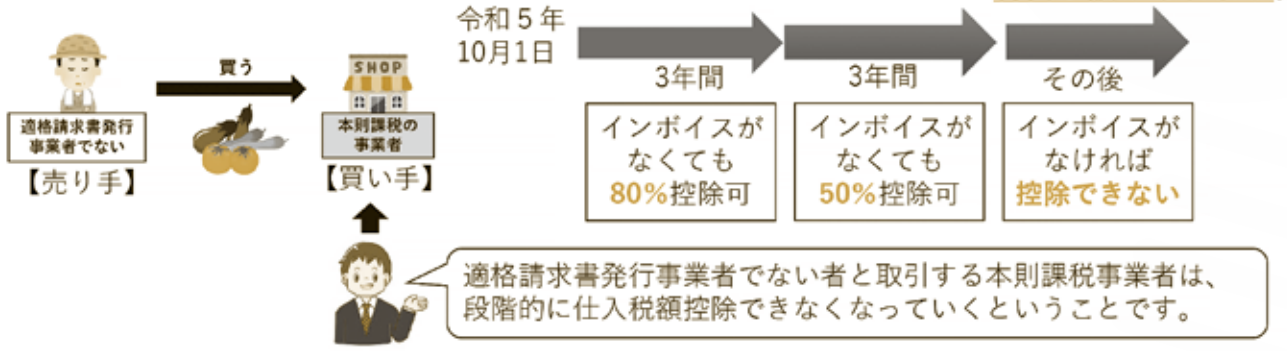
消費税インボイス制度導入による農業者への影響について

最終回

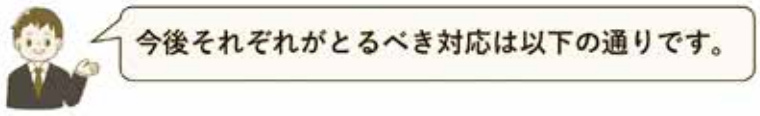
4．経過措置と今後の対応

令和５年10月1日のインボイス制度導入から「買い手」側には一定期間は税額計算の特例が措置されます。

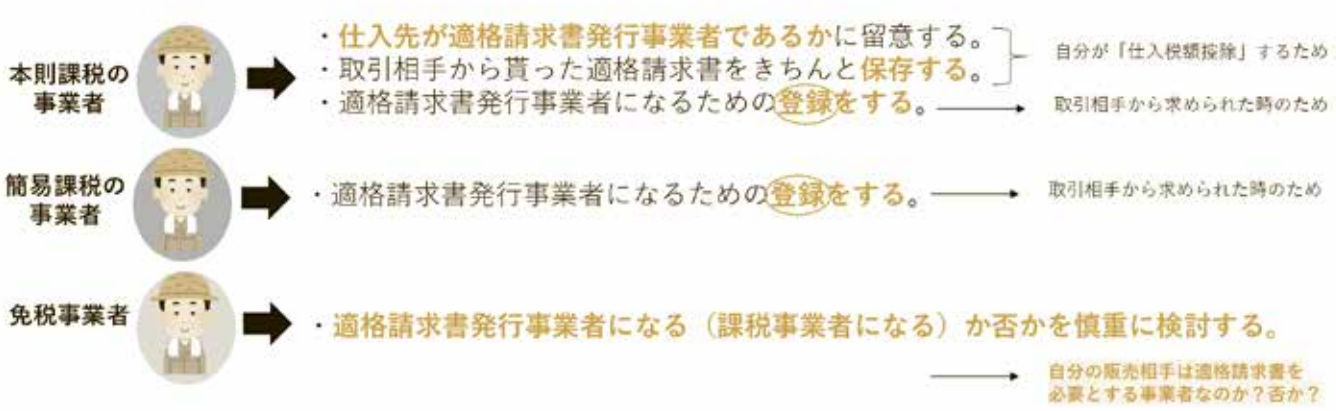
適格請求書発行事業者でない事業者からの課税仕入について、
インボイス制度導入後３年間は「仕入税額相当額の８０％を控除できる」
その後３年間は「仕入税額相当額の５０％を控除できる」
という特例が設けられます。



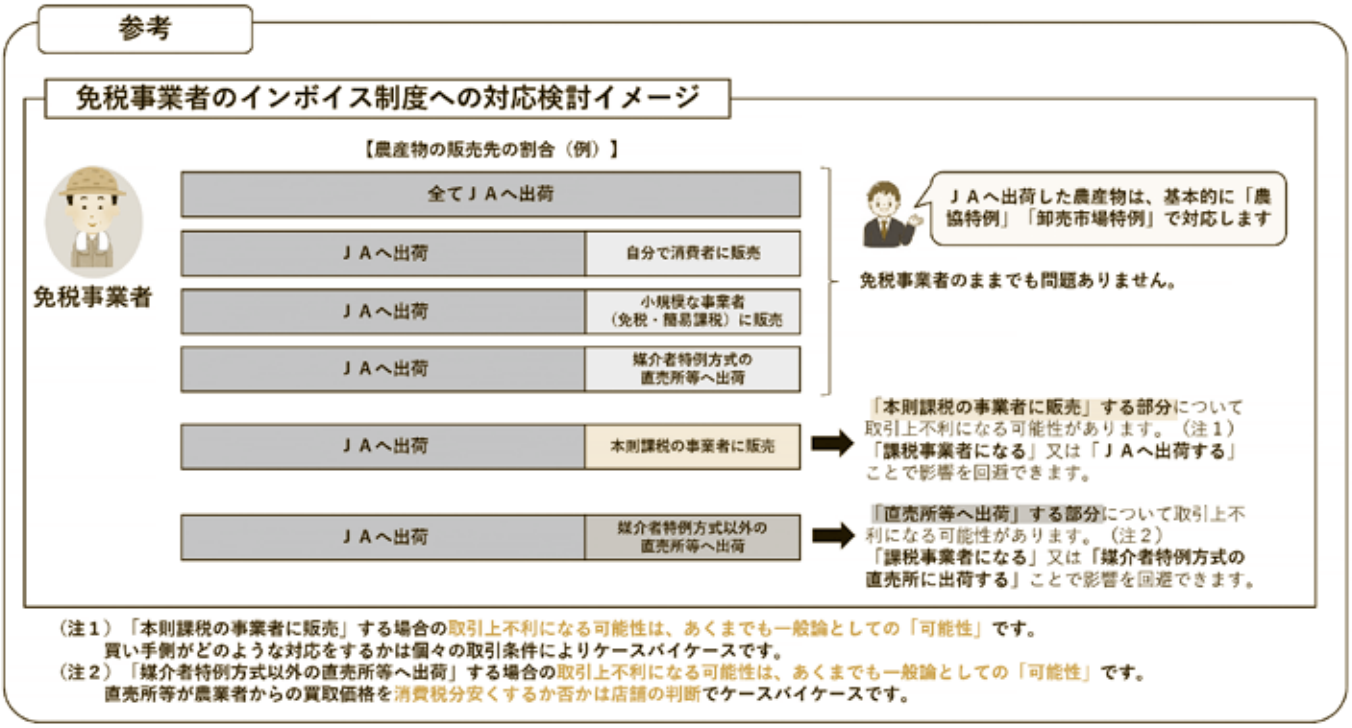
Copyright (C)2022 ＪＡ新潟中央会　All Rights Reserved



令和3年10月1日から適格請求書発行事業者の登録申請が始まっています。



Copyright (C)2022 ＪＡ新潟中央会　All Rights Reserved



７月号から連載でご説明させて頂いた内容をまとめて、当JAホームページの「組合員専用情報」ページに掲載しております。

JAへの就職希望者100％就職（令和3年度実績）

令和5年度第2回学生募集

●定員60名 ●男女共学 ●1カ年、全寮制 ●満24歳未満（令和4年4月1日現在）

●大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込

●試験日：12月10日（土）･11日（日）

●筆記・適性試験：10日（午前）/面接：10日（午後）・11日

●願書受付：10月1日（土）～11月18日（金）消印有効

●学校見学もできます

ＪＡグループ職員養成校

JAカレッジ

お問合せ
資料請求

一般財団法人　北海道農業協同組合学校
〒069 - 0834　江別市文京台東町43−1
☎0120−918−417　【ＪＡカレッジ】で　検索

税理士法人　中央総合会計による

知っておきたい得する経営情報　第10回

農業経営基盤強化準備金

農業経営基盤強化準備金は、多くの農業経営者の方が活用されておりますので、今一度制度の概要と令和３年度税制改正の内容をおさらいしていきたいと思います。

制度の概要

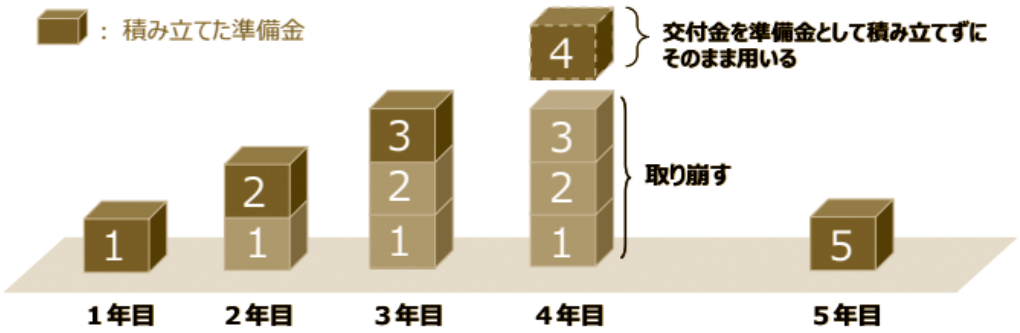
農業経営基盤強化準備金とは、経営所得安定対策等の交付金を活用して、計画的に農業経営の基盤強化（農用地、農業用の建物・機械等の取得）を図る取組を支援する制度です。

詳しく説明しますと農業者が、経営所得安定対策等の交付金を農業経営改善計画などに従い、農業経営基盤強化準備金として積み立て経理した場合、この積立額を個人は必要経費に、法人は損金に算入できます。さらに、農業経営改善計画などに従い、積み立てた準備金を取り崩したり、受領した交付金をそのまま用いて、農地用、農業用の建物・機械等を取得した場合、圧縮記帳できる税制上の特例の事をいいます。

（注）この特例の適用を受けようとする場合には、一定の方法で記帳し、青色申告により確定申告（初年は税務署に事前に届出）をする必要があります。

イメージとしては下図の様になります。

（例）　３年間積み立てて、４年目に農地等を取得した場合



準備金の積立

交付金を準備金として積み立てた場合、この積立額の範囲内で
① 個人は必要経費算入
② 法人は損金算入
（積立てない交付金は、課税対象）

農業用固定資産の取得

農用地や農業用機械等の取得に充てた、以下の金額の合計額の範囲内で圧縮記帳
① 準備金取崩額
② その年に受領した交付金の額

注：積立てた翌年（度）から５年を経過した準備金は、順次、総収入金額（益金）に算入され、課税対象となります（H28年に積み立てた準備金は、R４年に５年を経過し、R４年の所得の計算上、総収入金額に算入されます。）。

令和3年度税制改正

積み立てた翌年から5年を経過した準備金は、期限切れのため取り崩す必要があります。

令和3年度の税制改正により、**期限切れとなって取り崩した準備金は、積立や圧縮記帳の基準となる所得金額の計算から除外されることになりました。**

（注）課税対象から除かれるものではありません。

準備金の積立限度額及び圧縮限度額は次の【A】・【B】のいずれか少ない金額となります。

【A】【積立時】準備金として積み立てようとする金額（交付金収入額の範囲内で農林水産大臣が証明する金額）

【取得時】準備金の取崩額とその年の交付金受領額のうち農用地等の取得に充てた金額の合計

【B】事業所得金額（個人）・所得金額（法人）

次の金額を益金（総収入金額）に算入して所得金額を計算する

①農業経営改善計画等に記載された農業用固定資産を取得等した場合の取得相当額

②農業経営改善計画等に記載のない農用地・農業用の機械装置・建物等・構築物を取得等した場合の取得価額相当額

③任意に準備金を取り崩した場合の取崩し金額

〈除外〉

④積立をした事業年度（年）の翌期首から5年を経過した準備金がある場合、その5年を経過した準備金の金額

最後の④の部分が改正により積立時・取得時の限度額から除外されました。

法人は令和3年4月1日以降に開始する事業年度の法人税、個人は令和4年度分の所得税から適用されます。準備金積立後、活用されていない方はご注意ください。

その他追加される要件として「人・農地プランに位置付けられた**中心経営体であること**」です。

※人・農地プランとは農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、市町村により公表するものです。

法人は令和4年4月1日以降に開始する事業年度分の法人税、個人は令和5年分の所得税から適用されます。

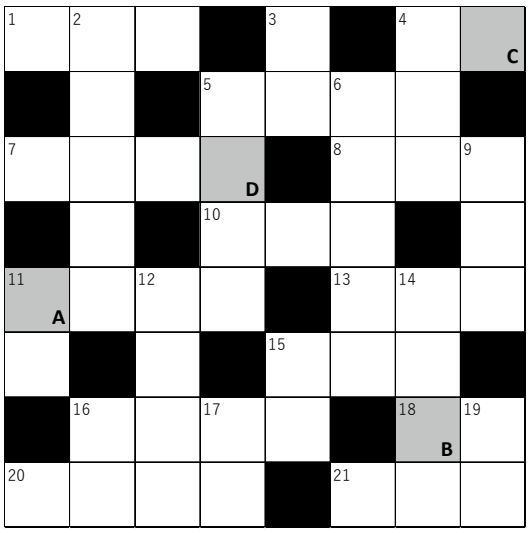
ご自身が中心経営体でない場合又は中心経営体であることがわからない場合は、経営農地が存在する市町村にお早めにご相談ください。

改正によって農業経営基盤強化準備金の内容が少しずつ変更になる部分もありますが、土地や機械の購入に充てることができれば税負担を抑えることができますので、準備金の積立は計画的に上手く活用していきたいものですね。

税理士法人
中央総合会計
「安心」が、私たちの商品です。
http://www.csk-i.com

クロスワードクイズ

提供元：クロスワード.jp



A	B	C	D

【タテのカギ】

2 決まりきったこと。普通のこと。当然。
3 スイッチが入っていること。○○⇔オフ
4 木で馬の形に作った物。
5 職人などの頭。職人などを敬い、親しんで呼ぶ言葉。
6 生徒を一定の人数に分けた組。クラス。
9 仏教で心の迷いを去って永遠の真理を会得すること。
11 光をさえぎって黒く映し出される物の形。水などの面に映し出される姿。
12 池や田んぼに浮かぶ水草。
14 城の内部にあるほり。
15 金属元素の一つ。元素記号Fe。硬くて銀色につやを持つ。
16 くきにとげがある低い木。いい香りの花をつける。
17 燃料用の割り木。たきぎ。
19 公共の団体・事業や神社などに金品を差し出すこと。

【ヨコのカギ】

1 白と黒のけんばんをたたいて音を出す楽器。
4 正月などでよく食べられる白い食べ物「鏡○○」
5 音の高低・強弱・長短・音色を組み合わせて作る、音の芸術。「○○○○を聞く」
7 ヨーロッパ南東部の国。首都はアテネ。「○○○○ヨーグルト」
8 鳥や飛行機が空を飛ぶために必要なもの。羽。
10 枯れた木。
11 ある歌の旋律に別の歌詞を当てはめた歌
13 利益があること。都合がよいこと。○○○⇔不利
15 うどん・そばなどを、機械を使わずに手で打って作ること
16 江戸幕府の末期。
18 企業の資本の増減・出納などを一定の形式で記録・計算・整理する記帳法
20 青と赤の中間の色。
21 舞台や映画などで役者が役の人としていう言葉。

8月号の正解は
「カキゴオリ」でした。
正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市　太田　とき　様
深川市　田村　順子　様
深川市　蓑口　芳子　様

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。
締切10月31日消印有効で当選者とクイズの答えは令和4年12月号に掲載します。
【送り先】〒074-0015　深川市深川町字メム10号線山3線5850番地
JAきたそらち農業振興部営農企画課　FAXの場合は 0164-22-1228
【ホームページ応募フォーム】URL:http://www.ja-kitasorachi.com/application_form/
※ご本人以外による応募は抽選の対象外とさせていただきます。

九月俳句

●雨竜俳句会

こおろぎや高く一跳ねテレビ前　北川　満江
ブランドの喧騒に交る蝉の声　小山　邦男
へぼ胡瓜なれど出来れば愛をしく　松木　五月
あと一声あと一声と秋の蝉　宮武めぐみ
蛍飛ぶ歓声あげて又飛んで　吉見サヨ子

●「道」俳句会　北竜支部

水旨き米の品評秋高し　山本　玲子
通い田の案山子三男坊の顔　山岸　正俊
永らえる心積りの種採りぬ　阿部れい子
ほろ酔いや明日は稲刈る男衆　吉尾　広子
雀来て敵意を見せる案山子かな　山下　好晴
どこまでも青空続く九月なり　中島　雅子
仲の良き夫婦と出会い秋さやか　宮脇美和子
転作田白いドレスの蕎麦の花　佐藤美智子

●土筆俳句会

獣医来て犬の診察暑気中り　高尾美津子
秋高し屯田兵の監的壕　池田　美知
赤蜻蛉青空に映え我を呼ぶ　山川　輝子
再びの青き命の穭かな　南川冨美子
夏惜しむ南国柄の寄る波に　佐藤英三子
秋の雨マスクライオン居る銀座　滝口富美子
屋形船街の明かりも秋澄めり　菅原　優子
黒葡萄粒が転がる孫の口　森田裕美子
座す良夜彼方此方へ念仏を　小橋　厚子

第９回理事会〈令和4年9月5日開催〉以下の事項について決議･承認されました

報告事項

1．関係団体等諸会議について
2．内部監査報告について
3．組合員の加入脱退について
4．財務報告及び事業実績について
5．固定資産の修繕について
6．反社会的勢力等との取引状況について
7．マネーローンダリング等の取引状況について
8．令和４年度第２四半期コンプライアンス事故報告について
9．職員の人事及び業務事故について
10．金融　ADR制度にかかる相談・苦情等対応状況の定期報告について
11．貸出金の貸付報告について
12．共済　相談・苦情等対応状況について
13．令和４年産米の作付動向と今後の対応について
14．水田活用の直接支払交付金の見直しをめぐる情勢と今後の対応について
15．肥料価格高騰対策事業について
16．令和４年度JA青年部・女性部とJA常勤役員との懇談会報告について
17．主要農作物の生育状況について
18．令和４年産　そばの出荷状況について
19．畜産物の販売実績について
20．令和４年産　うるち米・もち米全道共計概算金について
21．青果・花き集荷販売実績について
22．令和４年春肥料奨励金の支払について
23．経済部事業実績について

提出議案

議案第１号　組合員の出資金持分譲渡について
議案第２号　令和4年度上半期決算について
議案第３号　寒冷地手当の支給について
議案第４号　貸出金の貸付決定について
議案第5号　令和4年産米の取扱いについて
議案第6号　令和4年産「玄そば・小豆・大豆」の取扱いについて

音江保育園　バケツ稲レポート

９がつ　７にち　水ようび

ついに！！音江中央保育園のバケツ稲も収穫の時を迎えました♪
Instagramでも様子を紹介しましたが、みんな大はしゃぎで稲刈りに挑戦！
これから脱穀・籾摺り・精米を経て来月実食タイムです！お楽しみに☆

組合員の動き
（令和4年８月末日）

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,293	8	30	1,271
	団体	95	3	0	98
准組合員	個人	5,593	39	39	5,593
	団体	274	0	0	274
正組合員戸数		921	4	13	912

訂正とお詫び

2022年9月号掲載の記事に誤りがございました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。。

3ページ「令和4年度　新規就農者激励状贈呈式」
（正）　宮岸彬斗（みやぎしあきと）（一已地区）　森田裕美恵（もりたゆみえ）（納内地区）

金融共済部からのお知らせ

6割以上が10日以内に退院！？

医療共済 メディフル

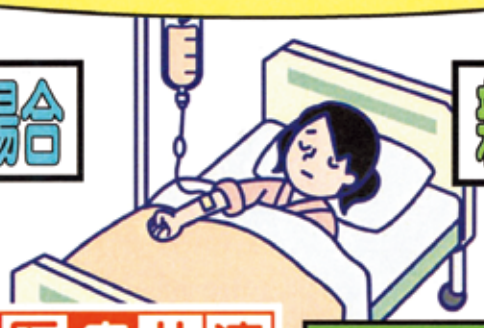
※厚生労働省「平成29年患者調査」より

短期入院にも備えられるように、今までの「日額保障」から「一時金保障」に仕組みの内容が大きく変わりました！！

①契約例（日額保障）
H28 契約　がん重点医療共済
日額 10,000 円

②契約例（一時金保障）
R4 契約　メディフル
治療共済金額：30 万円

虫垂炎（盲腸）で7日間入院および手術をした場合・・・



旧仕組みの場合

医療共済

支払う共済金額（合計）
27 万円をお支払い

入院共済金額：10,000 円×7 日＝7 万円
手術共済金額：10,000 円×20＝20 万円

※お支払いには所定の条件があります。

新医療共済の場合

医療共済 メディフル

支払う共済金額（合計）
39 万円をお支払い

治療共済金額：30 万円
手術共済金額：30 万円×30%＝9 万円

※お支払いには所定の条件があります。

上記の例では、受取額の差は 12 万円（39 万円－27 万円）となります。

また、手術を伴わない場合の受取額の差は 23 万円（30 万円－7万円）となります。

※仕組みの詳細は保障設計書もしくはリーフレットをご覧下さい。
※この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書（契約概要）」を必ずご覧下さい。また、ご契約の際には、「重要事項説明書（注意喚起情報）」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。

●お問い合わせは

JAきたそらち

本　　所	TEL 0164-22-6619	多度志支所	TEL 0164-27-2111
音江支所	TEL 0164-25-1111	雨竜支所	TEL 0125-77-2331
深川支所	TEL 0164-22-2171	北竜支所	TEL 0164-34-2280
納内支所	TEL 0164-24-2211	幌加内支所	TEL 0165-35-2024

JA共済

【22013506009】

■発行／きたそらち農業協同組合　〒074-0015　北海道深川市深川町メム10号線山3線5850番地　TEL 0164 (22) 6600　FAX 0164 (22) 8611
http://www.ja-kitasorachi.com　■編集／農業振興部 営農企画課　■印刷／株式会社 須田製版